



第十三回「長唄二題の会」四月公演

2008年1月、バルコ劇場楽屋に三七郎さんと剛二郎さんと一緒にいた。毎日の馬鹿な話の勢いで「じゃ、二人を中心に演奏会やろーよ、ははは、毎月さ、ははは、な。場所はさ、毎月のことだから上野広小路亭あたりでさ、ははは、いいぞー、毎月だぞー、平日の夜にさ、長唄二つくらいさ、ははは、ここにすれば長唄が気楽に聴けるって感じでさ、ははははははは」ちよいとしたり話題提供のつもりだった。だって出来っこないもん。会やることだって大変なのに、ましてや毎月なんて。そういう会があったら良いなあって思っただけだったのさ。

でも彼らは始めちまった。しかもその年の4月から。すごいなあー。どっからそんなエネルギー出てくんだよー。

しかも楽しそうにやってる。次々と仲間も増えている。ははは、いやあ参ったなあ、そんなスゴイ人たちには見えなかったがなあ、あははは。

そして、毎月が重なって一年がたつたのです。出演者たちのスゴサです。どうぞ誉めてやってください、続けるってスゴイエネルギーです。

そしてお客さまに深く感謝をいたします。お客さまの拍手やご意見が彼らの支えになってます。どうかこれからも聴いてやってください。彼らの愛する長唄を。

松永鉄九郎

唄

三味線

一、春 秋

五世杵屋勘五郎 作曲

杵屋正一郎 東音穂積大志

杵屋三七郎 東音大木啓衣

一、正 札 附

四世杵屋六三郎 作曲

杵屋三七郎 東音阪本剛二郎

杵屋正一郎 杵屋 五助

